

研究課題	ICT を活用した「新しい学び方」による社会に開かれた教育課程の実現
副題	～まちとつながる学びの実現～
キーワード	まち SDG s つながり 学び
学校/団体名	世田谷区立尾山台小学校
所在地	〒158-0086 東京都世田谷区尾山台3-11-1
ホームページ	http://school.setagaya.ed.jp/oi

1 研究の背景

新学習指導要領の実施を目前に控え、本校では「社会に開かれた教育課程」を実現するために新しい時代に求められる資質や能力を育てるための学びの場を地域にも求めている。長い間、本校の学校教育は、地元の町会やすぐそばにある商店街を中心とした地域に支えられてきた。

しかし、時代の変化によって、数年前から商店街や町会の景色が変わり始めた。商店街で店を営む経営者の変化や町会にかかわる若い世代の減少など「まち」そのものの価値の見直す時期であることを地元の方々も意識している。

地域・商店街・大学・小学校で組織される「おやまちプロジェクト」が平成29年度から始まった。平成29年に実施した「おやまちデザインプロジェクト『今昔写真物語ー50年の時を超えた撮影会』」では、地元在住の児童だけでなく、幅広い世代や地元大学を含めたグループをつくり、地域をめぐった。このワークショップでの活動で、世代を超えた多くの方たちが昔を懐かしみ、尾山台の地域を愛し、今後も歴史を残していきたいこと、小・中学生との関わり、地域の在り方について考えていることが分かった。

平成30年度には、3回の「おやまちサロン」を展開し、まちづくりやSDG sについての学習する機会を得た。社会や教育についての現代的な課題や学校教育について、地域の方々にも理解していただくことができた。6年生の理科「人と環境」の学習と総合的な学習の時間「SDG s これからの生き方について考えよう」では、SDG についてまちで実践していることを発見する学習を教育課程に位置付けた。

このような経過から、生涯に渡って互いに学び合える場と本校で実践しているキャリア教育の実践とを関連づけて、キャリア形成を促せるように、更に充実した教育課程を目指すこととした。

2 研究の目的

日本の産業界の変化やグローバル社会への変化が激しい昨今、子供たちは希望に満ちた未来像を描くことが容易でなくなった。子どもたちに希望をもって未来を切り拓く力を身に付けさせることは、学校教育の役割である。

(1) 社会に開かれた教育課程の実現

協力的な地域に恵まれている本校は、地域めぐりや商店街調べ、安全マップづくりをはじめ、多くの体験的な学習を取り入れている。今まで継続してきた学習に留まらず、「おやまちプロジ

ェクト」と組み、社会に開かれた教育課程として学習に位置付けるようにした。

(2) 主体的・対話的な深い学びの実現

社会に開かれた教育課程を実現するために、社会や世界の状況を視野に入れ、よりよい社会を創る子供を育てるという視点で授業をすすめる。小学校段階から主体的・探究的に学ぶことを通して、本校の研究で育てたい力を更に伸ばすことができると考えた。

(3) 地域と協働した学びの創造

昨年度の実践を振り返ることで、SDG s を継続的なテーマにした学習をどのように位置付けるかを検討する。「おやまち SDG s プロジェクト」の活動として、各教科・特別な教科 道徳の学習活動に位置付けて、教科・横断的な学習としてすすめる。

3 研究の経過

実施時期	実施内容
2019.4	1年間の活動の計画 校内研究推進部の組織立ち上げ
	おやまちサロン 講師:雑誌ソトコト編集長 指出一正氏
2019.5	研究プロジェクト立ち上げ
	おやまちベースの活動(リビングラボ)の開始
2019.6	校内研究 特別活動 研究授業①(4-1)
2019.7	校内研究 プロジェクト会議 各学級指導案作成
	世界友だちプロジェクト(4年)(ICTの活用)
	オープンホコ天デイズ ※不定期水曜日に歩行者天国を活用したイベントの開催
2019.8	おやまちサマーワークショップ(ICTの活用)
	おやまちプロジェクトと大学との連携
	おやまち寺子屋
2019.9	校内研究 特別活動 研究授業②(けやき学級)
2019.10	校内研究 全教科等におけるキャリア教育の実践
	リアル職業調べ(6年)(ICTの活用)
	世界ともだちプロジェクト(1・2・3年)(ICTの活用)
2019.11	校内研究 特別活動 研究授業③(2-3)
2019.12	校内研究 プロジェクト会議
	世界友だちプロジェクト(5年)(ICTの活用)
2020.1	校内研究 特別活動 研究授業④(5-3)
2020.2	校内研究 研究の成果と課題の分析
	おやまちサロン「可能性を無限に広げる場所づくり」講師:安藤勝信氏 LIVE 配信 (ICTの活用)
2020.3	おやまちベースの活動(リビングラボ)反省

(1) おやまちプロジェクトと本校キャリア教育に関連した学習

校内研究ではキャリア教育を推進している。学級活動を中心に研究授業をすすめた。年度はじめには、キャリア年間計画を各学年で作成して計画的にすすめている。今まで実践している学習だけでなく、今後おやまちプロジェクトと関わってすすめられる単元を開発した。

(2) 5年生「おやまだいSDGsの学習」(総合的な学習の時間)

今年度は5年生のキャリア教育年間計画の中で、総合的な学習の時間にSDGsの学習を位置付けた。年間を通しての計画が立っているので、見通しをもって取り組むことができた。

実施時期	実施内容
2019.5	<p><u>「SDGsって何だろう」</u></p> <p>→「SDGs」の17に目標について知り、課題意識をもつ。資料を活用して、各目標に関係する世界で抱える問題(例えば食品ロスなど)について調べる。調べたことは、クラスで共有をする。</p>
2019.6	<p><u>「学級で取り組めるSDGsについて考えよう」</u></p> <p>→5年生の各クラスで取り組んだ。グループごとに分かれて話し合いをすすめ、学級でできる実践を計画する。(例)各目標に沿って「残滓を減らすキャンペーンをしよう」「ペットボトルキャップを集めてワクチンにしよう」など身近にできることを計画した。</p>
2019.7	<p><u>「学級でSDGsに取り組もう」</u></p> <p>→学級でグループごとにキャンペーンを実施する。1週間実施した後、振り返りを実施して、継続できるように改善する。</p>
2019.10	<p><u>「川場村での実践を発見しよう」</u></p> <p>→移動教室で出かける川場村では、自然を守るためにどのような工夫があるのかを1学期の学習と結び付けて発見する。川場移動教室のまとめとして、見付けたことを記録し、尾山台との比較をする。</p>
2020.1	<p><u>「尾山台で取り組んでいるSDGsについて予想しよう」</u></p> <p>→自分たちが住む尾山台地域で、SDGsに関連したどのような取り組みがあるかを予想する。どんなことを調べたいか、学習の課題をもつために、まちについての情報を与えてから予想をさせる。</p>
2020.2	<p><u>「地域の方をお招きして、尾山台の取り組みを知ろう」</u></p> <p>→おやまちプロジェクトチームの中から、商店街と東京都市大学からゲストティーチャーをお招きして学習をすすめる。地域のSDGsに関連した取り組みを紹介してもらい、実態を知るだけでなく、取り組んでいる人の思いや願い、姿勢を学ぶ。</p>
2020.3	<p><u>「地域で取り組んでいるSDGsの取り組みを調べにいこう」</u></p> <p>→商店街だけでなく尾山台図書館、スーパーマーケット、幼稚園(休日は子ども食堂)など、尾山台地区まで活動範囲を広げて、調べる学習をすすめる。学校支援コーディネーターを中心に、グループ活動が展開できるようにする。</p>

	<p>SDG s の視点での取り組んでいること各場所で話していただく。グループごとに聞き取ったことをまとめ、学校内や地域に取り組み内容を掲示する。 (3月の臨時休校により、見学は実施できなかった。)</p>
--	---

4 代表的な実践

(1)「学級で取り組める SDG s について考えよう」

クラス全体で話し合い、できそうなことを決めた。そこからグループに分かれて、具体的な実践について考えた。国語や学級活動で身に付けた力を発揮することができた。

<目標 6> 「安全な水とトイレを世界中に」

→ 学校内での節水の心がけをしようと呼びかけて実践につなげた。

<目標 10> 「人や国の不平等をなくそう」

→ ペットボトルキャップを集めてワクチンに変えて世界中の人々が健康に過ごせるようにしたい。

<目標 5> 「ジェンダーの平等を実現しよう」

→ 温かい言葉がけをクラスで意識して、クラス遊びを計画して今より仲良くなりたい。

<目標 14> 「海の豊かさを守ろう」

→ クラスでごみのチェック表をつくり、リサイクルの意識を高める。



(2)「地域の方をお招きして、尾山台の取り組みを知ろう」

ゲストティーチャーには、5年生が取り組んできた学習内容を共有し、個人だけでなく社会全体で SDG s を意識して取り組んでいることを子供たちに伝えてもらった。クラスでの実践から尾山台地域へ視点を広げることで、自分たちがやろうとしていることが実際に社会で生きていることを実感できた。

おやまちプロジェクトで中心となって活動している方々に話を聞くだけで、SDG s を意識した取り組みが多くあった。エコバッグの取り組みや尾山台フェスティバルの開催、地元製品の地産地消など、子供たちは知っている活動と SDG s の視点が結びつくことがあった。自分たちが住むまちへの関心が一気に高まり、見学への意欲を高めた。



(3) 「リアル職業調べ」

6年生がキャリア教育のまとめの段階で取り組む学習。職業人である講師一人一人が、仕事をすすめる中で人と関わり、人に支えられ、自分が世の中の役に立っていることを実感できる喜びを語ってもらう。「なりたい自分になる」と未来への希望を膨らませるきっかけを講師から学ぶ学習である。

様々な職業人からの幅広い話は、尾山台の地域だけに留まらないものであり、子供たちの興味・関心を高めることができる。自分自身のなりたい職業については、調べる学習をすすめて、3月の巣立ちの会でタブレットPCを使って、発表会を行う。(臨時休校によって今年度は中止)



5 研究の成果

(1) 児童の変容

① アンケート結果による児童の変容

<SDGsの学習やおやまちサロンでの参加者、協力者のアンケート>

今年度は、どちらも新型コロナウイルスの影響で実施の仕方を一部変更したため、十分なアンケートや分析ができなかったが、昨年度の課題からグループごとの訪問先で一定の成果が表れるように事前の打ち合わせを行い、学習するねらいを共有した。このことによつて、児童の学習意欲が高まると考えた。

(肯定的な評価が高かったもの)

- ・地域の人たちは、自分に様々なことを教えてくれると思う。
- ・自分が住む地域の人たちが行っている仕事に興味をもっている。

(肯定的な評価がやや低かったもの)

- ・自分は住んでいる地域の役に立っていると思う。

地域とともにすすめる学習を教育課程に位置付けるために、ねらいを共有することを重要視してすすめた。

<リアル職業調べでの児童のアンケート>

・仕事に対するイメージで数値の多かったものは、学習の事前は「大変」「お金」「人の役に立つ」などであったが、学習の事後には、「楽しい」「人の役に立つ」「関わる」などへ変容がみられた。

・右の表は、自分のよさについてのアンケートである。ここ数年継続している。6年生を対象としたアンケートでは肯定的な回答を示す数値は上昇傾向にあ

	H27	H28	H29	H30	R1
★知っている	15.4%	40.6%	44.4%	36.7%	52.6%
★少し知っている	38.5%	46.9%	42.9%	44.3%	41.0%
☆わからない	46.2%	12.5%	12.7%	19.0%	6.4%

る。本年度は過去の中で一番高い数値となった。アンケートから、総合的な学習を中心とした学習は児童にとってのメリットが大きかったことが分かった。また、5年間のキャリア教育の積み重ねが着実に児童の自己肯定感の向上につながっているといえる。

② 地域についての意識や理解の向上

本校の教育課程には、地域とのつながりを通じた体験学習や調査学習が計画的に配置されている。子供たちは、6年間の生活で、地域への理解を深めている。

今年度のSDGsの取り組みやリアル職業調べの学習では、地域への意識に変容が見られた。自分の学びが実際の生活に結び付くことで、学習意欲が向上した。子供が、教科と教科、教科と行事つながり、地域と子供たちのつながりに気付くことで、学ぶ意義や学ぶ面白さを感じ、いずれは社会で力を発揮しようとする意欲につながる。

6. 今後の課題・展望

おやまちプロジェクトが地域と大学との連携をより一層深め、活動が充実してきた。年間を通して、様々な企画があり、尾山台の地域にも根付いてきた。学校の教育課程は、今までの取り組みを継続していくことだけでなく、現代的な教育課題と向き合いながら、計画的にすすめていくことが肝心である。昨年度と今年度の実践を本校の教育課程に位置付け、今後もキャリア教育で育てたい力を明確にして、身に付けさせる資質・能力を地域と共有していく。どちらかの一方通行にならないように、学校を支える組織が調整的な役割を果たしてすすめていく。

地域の方の意識調査は、聞き取り調査だけでなく、ある程度の数値化をしていくことも必要である。学校関係者評価も生かしながら方法を探っていく。

7. おわりに

おやまちプロジェクトの活動も広がりを見せ、「子ども食堂」や「歩行者天国の活動」「おやまちシンポジウム」などの活動が、ここ数年で定着をしてきました。まちの未来を長期的に考える組織が、学校と共に学校教育を進めていけることは、本校の未来にも重要です。近隣の大学からも多くの学生が尾山台地域の活動に参加して、自己の課題をもって取り組んでくれました。

今年度はSDGsを題材に高学年の学習を計画・実践した。地域と共に活動する内容を教育課程に位置付け、教育内容を地域と共に合致させ、教科横断的な学習としてすすめてきました。新しい学び方として、地域とともに学習の方向性を確認して、楽しい授業をめざすことは、教員の授業改善の意識を高めるきっかけにもなりました。

この研究をすすめるにあたって、パナソニック財団事務局の方々には、大変お世話になりました。心より感謝を申し上げます。

8. 参考文献

「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」